

1) 課題文を読ませて、読んで聞かせ、読み聞かせた後はスラスラ読みができることが多い。
 2) 問題を考え、()に○か×を。
 3) 助詞を意識させること。

a) 付着構文の読解。文の論理を左右する助詞を意識すること。特定用具:不要
 b) 読解は、叙述内容を文に依って理解すること、文を越えて比喩的に理解することの両面が求められる。「みたい」は両者にまたがる表現。

おとうさんが きててを ぺろっとなめて、
 てがみに ぺたっとはった。
 おとうさんの したは のりみみたいだ。



○かな? ×かな?

- () はったのは おとうさんだ。
- () きててに てがみをはった。
- () てがみを ぺろっとなめた。
- () きててを ぺたっとはった
- () おとうさんの したは のりだ。